NOHARA Marie

野原万里絵（のはら・まりえ）
1987年大阪生まれ。2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。絵画を描く際の感覚的かつ曖昧な制作過程に関心を持ち、自ら制作した定規や型紙などの道具を用いた絵画作品を制作・発表している。また、自身が道具で絵を描く行為に加えて、ワークショップを日本各地で開催し、協働制作による作品も発表。他者とのコミュニケーションを通して、絵画の新たな可能性を模索している。主な展覧会に、2020年「整頓された混乱」（gallery TOWED、東京）、2019年「飛鳥アートヴィレッジ2019 回遊」（奈良県立万葉文化館 展望ロビー、奈良）など。

Photo／小山田邦哉

ACACの公募AIRはどのようにして知りましたか？

ベージュ色のシンプルな公募のチラシに惹かれて、Webサイトを見たのがきっかけです。

なぜ今回応募してみようと思いましたか？

何年も前から応募してみたいとは思っていました。今年は、連続して三ヶ月間、青森に滞在出来るスケジュールであったことや、ACACの弧状のギャラリーで展示したいという思いが強く、その準備が自分の中で整い始めたので応募しました。

今回、AIRのプログラムに参加していかがでしたか？

レジデンスがはじまる前に、青森には錦石などの色とりどりの石や複雑な形状の岩があると知り、石をメインにモチーフを固定させて、絵を描くことにしました。これまでは、白や黒色以外の色彩を用いることに抵抗がありましたが、今回は石を指標に他者を巻き込んで、色を制限することなく絵を描けたことが、私自身にとっては大きな収穫でした。

また、青森の石をきっかけに、青森県内の方々と予想以上に交流が出来た三ヶ月でした。これまで様々な土地でレジデンスをしてきましたが、スタッフの皆さんはもちろんのこと、様々な職種で、ここまで協力的に手助けしてくださる地元の方々とお会いしたことがなかったので驚きました。

そして、制作環境はこの上なく広く、秋から冬への壮大な自然の移ろいを感じながら絵を描ける環境で、青森でもっと住みながら作品を作ってみたいと、大阪に帰ってからも感じています。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響で移動ができなくなり、プログラムに大幅に変更が生じました。コロナ禍でのレジデンスについて、何か考えることがあれば教えてください。

本来であれば、ACACの大きなキッチンで一緒に料理をしたり、長いダイニングテーブルでご飯を食べたりと、共に生活する中で感じる、その人らしさや作品作りに繋がる生き方を間近で見ることが出来ましたが、海外からの作家の皆さんと青森で会えなかったことは残念でした。

また、材料の物質感や画材の粘度、道具を使った線の引き方など、言葉では伝わりづらい作家のこだわりが、今回のオンライン上での交流では共有しづらく、現地で共に滞在し、制作する良さを改めて感じました。

ただ、そのような中でも、遠隔で青森の方々とコミュニケーションを続け、調査や作品へとその経験を繋げていく海外作家の皆さんの姿勢や方法はとても参考になりました。現地でレジデンスをすることが一番なことには変わりませんが、それが実現しづらい状況の中、何を知り

Photo／小山田邦哉

たくて、どのような方法でアプローチすれば可能性が広がるかを、自身でも考えるきっかけとなりました。

現状、この状況下で何か困っていることはありますか？　それに関わり、どのようなアーティスト支援が必要だと思いますか？

今年度は、アーティスト支援の助成金が多く設立されたこともあり、個人的な活動に関しては、それほど不自由を感じずに制作に没頭することができました。

ただ、来年度からもこのような状況が続き、展覧会の延期や作品販売への影響が続くと思われるため、作品発表の場や制作環境、滞在場所の無償提供などの支援もあれば、救われる作家は多くいると思います。

また、簡単に海外へ行ける状況ではないので、自身が訪れたい国に詳しいアーティストや現地の職人等と繋いでくれるシステムがあれば嬉しいです。ＡＣＡＣにこれまで参加した作家のグループがあったり、海外作家と繋がることの出来るコミュニティがあれば、プログラム外でも互いが気軽に資料を提供したり情報交換しながら、将来の現地での制作に備えた交流が日常的に出来るかなと思います。

本プログラムでの経験は、今後の活動にどのような影響をもたらすとお考えでしょうか？ あなたの活動の展開についても教えてください。

今回の作品の制作過程では、顔料や木炭ではなく、初めてアクリル絵の具を使う協働制作を試みました。絵の具やメディウムを用いた複雑な工程を他者と共有することは、これまでは困難だと避けてきましたが、石という小さな塊をモチーフに選ぶことで、時間の蓄積や、層の奥行きを人々は想像し、そのイメージを頼りに絵の具に転換して表現することが出来ると知りました。その経験から、これまで各地で見てきた洞窟壁画や遺跡がどのようにして大勢の人々の手によって描かれていたかということを、作り手の目線で調べたいです。長い時間をかけて、どのように人々が描き方を伝達されていたのか、石積みや模様の組み合わせは誰が考え指揮してきたかということなど、資料には残りづらい部分を知りたいです。そのようにして、協働で作る上での工程や方法について調べ、自身の絵画制作に生かしていきたいです。

2020年度 アーティスト・イン・レジデンス プログラム公募概要

★募集時（2019年12月16日—2020年1月31日）の情報。滞在の有無や期間等、新型コロナウィルス感染症の影響により、大幅に変更となった。

1 事業概要

OPEN CALL：CALL for OPEN

国際芸術センター青森（ACAC）は2001年の開館以来、アーティスト・イン・レジデンス（AIR）のプログラムを柱に、展覧会、ワークショップ、トークなど、アーティストと市民や学生との交流プログラムを織り交ぜて活動を続けてきました。ACACにはユニークな展示ギャラリーがあり、これまでの公募AIRでは約3か月の滞在期間中に展覧会に参加することを必須としてきました。制作と発表、そして来館者のレスポンスが一続きのプロセスにおいて行われることにACACのAIRの大きな特徴があると言えるでしょう。

上記のようなこれまでの実践を踏まえ、今年の公募ではACACのAIRの幅を拡張することを試みます。まず、展覧会参加を必須とはしません。もちろん展覧会もできますが、展覧会に参加しない方はワークショップ、パフォーマンス、トークなど何らかのイベントを実施してください。また、期間は選択制です。最短で2週間、最長では3か月の滞在を可能とします。短期間の滞在で集中的に制作してワークショップやパフォーマンスを行うことも可能ですし、長期間の滞在で実験を繰り返して作品を深化し、発表することもできます。つまり、ここで何をするかはあなた次第。

私たちACACには、ここでしか提供できない環境があります。本州の北端に位置し、大都市とは異なる文化を有すること。八甲田山のふもとの力強い自然に囲まれていること。巨大な弧状のギャラリー空間を備えていること、等々。この環境を楽しみ、未だ発見されていない強みを私たちと共に導き出し、この施設を思う存分使い倒してみませんか。ACACをハブとして、様々な分野のアーティスト、キュレーター、リサーチャー等が集うことで、表現者同士、そして市民や学生との交流も行われる、創造的な場が立ち現れることを願っています。

2 公募人数 ★推薦による参加者は1名に変更

6—10名（海外のAIR実施団体からの推薦による参加者2名含む）

3 事業日程 ★招聘期間が9月16日から12月22日へ変更

招聘期間：
2020年6月17日（水）—9月22日（火）のうち以下のタームから選択する希望の期間。最短1ターム、最長7タームの選択可。
① 6月17日（水）—6月30日（火）
② 7月 1日（水）—7月14日（火）
③ 7月15日（水）—7月28日（火）
④ 7月29日（水）—8月11日（火）
⑤ 8月12日（水）—8月25日（火）
⑥ 8月26日（水）—9月 8日（火）
⑦ 9月 9日（水）—9月22日（火）

募集期間：
2019年12月16日（月）—2020年1月31日（金）
日本時間17:00

選考日程：
1月31日（金）募集締め切り
2月上旬1次審査
2月10日（月）1次審査通過者へ通知
3月10日（火）2次審査用書類提出締切
3月下旬2次審査
4月末招聘者決定

4 応募方法

1.次審査：インターネット上の応募フォームでの応募
＊インターネット上の応募フォームで以下の期限まで申し込みをしてください。
応募締切：2020年1月31日（金）日本時間17:00
（募集は終了いたしました。多数のご応募ありがとうございました。）
2.次審査：書類による審査
＊1次審査通過者には2月10日（月）に通知し、2次審査用の書類を別途3月10日（火）必着で郵送で提出していただきます。

5 選考および通知

提出された資料をもとに、国際芸術センター青森学芸員および外部審査員平倉圭氏による審査によって選考、決定されます。なお審査結果は、2020年4月下旬に応募者にメールで通知します。

6 外部審査員

平倉圭
1977年生。専門は芸術学。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了（学際情報学博士）。横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院Y-GSC准教授。芸術作品の制作過程における物体化された思考の働きを研究している。最近はパフォーマンス研究も。著書に『かたちは思考する—芸術制作の分析』（東京大学出版会、2019年）、『ゴダール的方法』（インスクリプト、2010年、第二回表象文化論学会賞受賞）ほか。

7 応募条件

a）現在活動しているアーティスト及びキュレーター、リサーチャーなど芸術表現に関わる活動を行っている個人・グループ（ジャンルは問わない、以下アーティスト等と表記する）
b）制作、生活に係る全てを独力で行うことができること
c）展示及びイベントの設営・撤去まで責任を持って行うこと
d）滞在の目的を理解し、決定された招聘期間中に滞在が可能であること
e）期間中、他のアーティスト等との共同生活が可能であること
f）展覧会を行わない場合は、トーク、レクチャー、パフォーマンス・公演、ワークショップ、学校訪問などの交流プログラムを行うこと
g）上記の交流プログラムを、英語あるいは日本語で行うことができること
h）健康状態が良好であること
i）最低限日常会話程度の英語が理解できること

8 展覧会を行う場合

会場：国際芸術センター青森および敷地内周辺
＊展示は学芸員と協議の上、グループ展示となる場合があります。
＊作品展示、展覧会構成に関しては、国際芸術センター青森専門スタッフとの協議の上、決定します。
（以下、招聘条件など略 掲載ページ:http://www.acac-aomori.jp/public/）

★新型コロナウィルス感染症の影響により変更となった。

アーティスト・イン・レジデンス・プログラム2020
OPEN CALL: CALL for OPEN

アーティスト｜神村恵、阪中隆文、野原万里絵、アメリ・ブビエ、アリシア・チツェル、サラ・ウアドゥ、ウリヤナ・ボドコリトヴァ
プログラム実施期間｜2020年9月16日(水)―12月22日(火)
主　　催｜青森公立大学 国際芸術センター青森
協　　力｜AIRS(アーティスト・イン・レジデンス・サポーターズ)、青森公立大学芸術サークル、TAUTAI Contemporary Pacific Arts Trust、ZARYA Center for Contemporary Art
助　　成｜令和2年度アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業
後　　援｜東奥日報社、陸奥新報社、NHK青森放送局、RAB青森放送、青森テレビ、青森ケーブルテレビ、エフエム青森
企　　画｜金子由紀子、村上綾、慶野結香

■レジデント・サポーター交流会
日　　時｜9月19日(土)、10月3日(土)、10月17日(土) 各回10:00―
会　　場｜展示棟ラウンジ
参加者数｜20名

■野原万里絵 協働制作
日　　時｜9月27日(日)、30 日(水)、10月3日(土、13:00―16:00)、
5日(月)、11日(日)、13日(火)、16日(金)、
17日(土、13:00―16:00)、22 日(木)、25 日(日)
＊10:00―16:00 のうち(10月3日、11日、17日は13:00―17:00のうち)いつでも。
会　　場｜創作棟ワークショップスタジオ
参加者数｜28名

■阪中隆文 協働制作
日　　時｜10月20日―11月上旬
会　　場｜宿泊棟
参加者数｜5名

■リサーチインプログレス with アリシア・チツェル
日　　時｜随時―12月中頃まで ＊オンライン実施
参加者数｜4名

■アメリ・ブビエ 展覧会「私はいつも空の方を見てきた」
日　　時｜10月3日(土)―11月1日(日) 10:00―18:00
会　　場｜展示棟ギャラリーA
来場者数｜746名

■アメリ・ブビエ　アーティストトーク
日　　時｜10月18日(日)16:00―18:00
会　　場｜展示棟ラウンジ
参加者数｜3名

■参加アーティスト＋平倉圭オンラインミーティング
日　　時｜10月29日(木)17:00―20:00、11月24日(火)17:00―19:00
＊一般公開無し

■神村恵 ワークショップ
日　　時｜11月14日(土)14:30―16:30、11月29日(日)14:00―16:00
会　　場｜創作棟講義室
参加者数｜9名

■阪中隆文 展覧会「アトピアを探して」
日　　時｜2020年11月14日(土)―12月20日(日)10:00―18:00
会　　場｜展示棟ギャラリーB
来場者数｜582名

■サラ・ウアドゥ 展覧会「AA―Atlas/ Aomori」
日　　時｜11月21日(土)―12月20日(日)10:00―18:00
会　　場｜展示棟ギャラリーA
来場者数｜582名

■野原万里絵 展覧会「埋没する形象、組み変わる景色」
日　　時｜11月21日(土)―12月20日(日)10:00―18:00
会　　場｜展示棟ギャラリーA
来場者数｜582名

■神村 恵 ワークインプログレス公演
《彼女は30分前にはここにいた。》#2
日　　時｜11月21日(土)15:30―16:30
会　　場｜展示棟ギャラリーA
来場者数｜44名

■参加アーティスト×平倉圭(芸術学)トーク
日　　時｜11月21日(土)
野原万里絵　14:00―14:30
阪中隆文　　14:30―15:00
神村 恵　　ワークインプログレス公演(15:30―約1時間)後
会　　場｜展示棟ラウンジ、オンライン配信
参加者数＋再生回数｜69名＋249再生(2021年2月14日時点)

■神村 恵 学校訪問
日　　時｜11月24日(火)
訪 問 先｜青森中央高校美術系列2年生
参加者数｜14名

■アリシア・チツェル オンラインプレゼンテーション＋トーク
日　　時｜12月5日(土)18:00―19:00
会　　場｜展示棟ラウンジ
参加者数｜5名
＊12月10日―12月20日ラウンジにて録画映像を公開

■ウリヤナ・ボドコリトヴァ　アーティストトーク
日　　時｜12月6日(日)15:00―16:00
会　　場｜展示棟ラウンジ
参加者数｜8名
＊12月10日―12月20日ラウンジにて録画映像を公開

■サラ・ウアドゥ アーティストトーク
日　　時｜12月6日(日)16:00―17:00
会　　場｜展示棟ラウンジ
参加者数｜3名
＊12月10日―12月20日ラウンジにて録画映像を公開

■神村 恵 公演《彼女は30分前にはここにいた。》#2
日　　時｜12月12日(土)15:30―16:30
会　　場｜展示棟ギャラリーA
参加者数｜44名

■メディア掲載
• 新聞広告・記事

9月11日(金)	陸奥新報｜アートの現場からACAC通信「動き続ける/新しい公募AIRへ」寄稿:慶野結香／7面
9月25日(金)	東奥日報｜リーフレット掲載①／18面
9月25日(金)	東奥日報｜第4社会イベント情報「野原万里絵協働制作」／24面
9月30日(水)	陸奥新報｜暮らしとイベント情報＊展示「展覧会お知らせ」／13面
10月 1日(木)	東奥日報｜「新たな公募AIR開始」／11面
10月 2日(金)	陸奥新報｜アートの現場からACAC通信「青森でも、ベルギーでも」寄稿:金子由紀子／10面
10月 8日(木)	河北新報｜文化「青森滞在し創作 作品披露」／11面
10月14日(水)	読売新聞｜「アート制作 心通わせ 青森市民と芸術家 協働で作品」
10月21日(水)	東奥日報｜リーフレット掲載②／17面
11月 6日(金)	陸奥新報｜アートの現場からACAC通信「かゆみのポートレイト」寄稿:村上綾／10面
11月11日(水)	東奥日報｜リーフレット掲載③／6面
12月 3日(木)	東奥日報｜学カルチャー「国内外アーティスト活動発表」／13面
12月 3日(木)	東奥日報｜「青森の要素 作品に ACAC AIR成果展」／9面
12月 4日(金)	陸奥新報｜アートの現場からACAC通信「場所における身体のあり方」寄稿:慶野結香／10面

• 雑誌

9月15日(火)	広報あおもり9.15(No.371)「国際芸術センター青森からのお知らせ」／15頁
10月15日(木)	広報あおもり10.15(No.373)お知らせ「アメリ・ブビエ展覧会」／15頁
10月25日(日)	rakura11・12月号(vol.102)「展覧会お知らせ」リーフレット掲載／97頁
10月30日(金)	CLIPPER11月号 No.221「阪中隆文展覧会開催お知らせ」／13頁

• Web

Web版美術手帖	「OPEN CALL: CALL for OPEN」https://bijutsutecho.com/exhibitions/6496
Web版美術手帖	アメリ・ブビエ個展「私はいつも空の方を見てきた」https://bijutsutecho.com/exhibitions/6497
Web版美術手帖	阪中隆文 個展「アトピアを探して」https://bijutsutecho.com/exhibitions/6890
Web版美術手帖	「野原万里絵 個展」https://bijutsutecho.com/exhibitions/6912
Web版美術手帖	神村 恵「《彼女は30分前にはここにいた。》#2」https://bijutsutecho.com/exhibitions/7029
Web版美術手帖	サラ・ウアドゥ 個展「AA–Atlas/Aomori」https://bijutsutecho.com/exhibitions/6911
アートアジェンダ	「OPEN CALL: CALL for OPEN」https://www.artagenda.jp/exhibition/detail/5269

• TV等

10月13日(火)―25日(日)	青森ケーブルテレビ「ACTタイム」(野原万里絵協働制作)
10月17日(土)―23日(金)	青森ケーブルテレビ「週刊あおもり情報局」(野原万里絵協働制作)
11月19日(木)	NHK「アップルワイド」(夕方)
12月 9日(水)	NHK「アップルワイド」(野原・ウアドゥ作品紹介)
12月10日(木)―18日(金)	青森ケーブルテレビ「ACTタイム」(野原万里絵展)